



# 読者のたより

お志が見事に受け継がれ

大乘寺山主 東隆眞老師  
石川県

「成寿」第四〇巻たしかに  
拝受いたしました。先代老師  
のお志が見事に受け継がれて  
いることを目の当たりに拝見  
いたし、嬉しいかぎりです。  
本年は先代様の七回忌に拝  
登焼香いたします。  
御母上様をお大切にお大切  
におねがいたします。

斉藤老師の遷化 驚きました

前田恵學先生  
愛知県

御誌「成寿」四〇巻によつ  
て斉藤信義老師のご遷化を知  
りました。大学で同じ研究室  
の大先輩で、大変親しくして  
いただきましたので、誠に残  
念です。かつて善寶寺様やご  
自坊にお伺いしたことなど思  
い起こしています。

一〇四頁に私の名前を発見  
いたしました。有難う存じま  
した。

※先生は平成二十二年十月三十一  
日、八十四歳にて遷化なされました。

ここに生前のご法愛に深謝し謹んで哀悼の意を捧げます。

### 日々御活躍の御精進

静岡県

聚光院伊東別院住職

小野澤寛海老師

今年残り少ない月日となり一年の総決算を考える時となりました。先日師の機関誌「成寿」第四〇巻拝送賜り深謝いたします。

仏法興隆の為、日々御活躍の御精進誠に有難く存じます。無音の折、深謝申し上げます。同様家族のこと等、お会いしてお話し申し上げたいことばかりです。来年は良き年であ

りますよう右はお礼旁々お知らせ迄。

### 実相には生も死も

静岡県

少林寺住職 井上貫道老師

いつも善光寺の季刊誌をありがとうございます。今回最初に目に飛び込んで来たのが副貫首齊藤信義老師の計報。

人間に限っていえば、死ぬることが最初から間違いないと解っている上で人は生きる。どんなに医療が発達し、手術が成功しても死はさけられない。生きることだけをしっかりとやれば後は気にせずとも必

ず決着が着くのに、死ぬことが気にかかる。いつからか人間は死という既成概念をいだいて悩まされる動物になったのでしょうか。

実相には生も死もついていないのに、文字で表記され更に確たる思想観念となつて人にとりついた悪夢であれ好夢であれ夢から覚め、覚めた人となることは現代の急務であろう。宗教者がこれを率先理解して教化したいものです。

ご自愛を祈ります

山梨県  
延命院住職 神田重陽老師

善光寺季刊誌「成寿」第四  
○巻戴きありがとうございます。ま  
した。拝読させて頂きます。  
寒気の折、ご自愛祈ります。

過分の御祝儀、恐縮です

石川県  
森雅秀先生

立春を過ぎても寒い日が続  
いておりますが、益々御清祥  
のこととお慶び申し上げます。

先立っては拙著上梓に過分

の御祝儀を賜り、恐縮してお  
ります。まことにありがとうございます。  
ございました。浅学非才の身  
ですが、これからも仏教学の  
進展にいささかなりとも寄与  
出来るよう、精進する所存で  
おります。引き続きご指導ご  
鞭撻賜りますよう、よろしく  
お願い申し上げます。

貴育英会の益々の発展と、  
檀信徒様の皆様のご健勝を心  
より祈念いたします。何かお  
役に立てることがございまし  
たら、何なりとお申し付け下  
さい。

時節柄、お風邪などを召さ  
れませんかよう、ご自愛下さい。

肺ガンにも負けず

横浜市  
三宅正吉様

御住職には御健勝にて正法  
におはげみ下されることによ  
ろこばしく存じます。故大圓  
大和尚さまのおみちびきによ  
り、大本山総持寺三宝殿で仏  
道にお導き頂いて以来、南無  
釈迦牟尼佛をお唱えさせて頂  
くことにより、肺ガンにも負  
けず今日を幸せに過ごさせて  
いただいております。平成二  
十二年は御住職様におかれま  
しては、晋山式をお迎え下さ  
れる誠に意義深い年と「成寿」

の文により知りました。益々  
正法の隆盛なることを御期待  
申し上げます。益々  
の寺院の隆盛を申し上げつ  
私の新春の喜びといたしま  
す。

国際交流が求められる

千葉県  
久保田展弘様

この度は季刊誌「成寿」第  
四〇巻ご恵与賜りましてあり  
がとうございました。善光寺  
海外留学僧派遣育英会のご発  
展は、まさに国際交流が人間  
に求められる今日、まことに  
貴重なご活動と存じます。

成寿山善光寺の一層の発展  
をお祈り申し上げますととも  
に、今後ともご教導賜ります  
よう念じ上げます。

諸法要行事等に対し敬意

神奈川県  
渡辺照夫様

師走の候、善光寺様には  
益々ご隆昌のこととお慶び申  
し上げます。

先日は善光寺季刊誌「成寿」  
第四〇巻をご送付賜り何時も  
乍らのご配慮有難くお礼を申  
し上げます。

大圓武志大和尚のご遺志に  
なる諸法要行事等の実績に対

し衷心より敬意を表します。  
厳寒の折柄、ご一統様のご  
健勝をお祈り申し上げお礼の  
ご挨拶と致します。

師父時代の編集と遜色なく

横浜市  
戸塚正美様

「成寿」拝読、師父時代の  
編集と遜色なく、立派な寺報  
です。廃刊になるのではない  
かと心配していましたが、軌  
道に乗って良かった。もう大  
丈夫ですね。

六日には駒大三心会も善寶  
寺に伺い、お元気な斉藤信義  
老師に拝謁できて、喜んでお

ります。善光寺の団参といい、まるでご老師がお呼び下さったようで、十一月の遷化の報にびつくりしました。小生、「大雄」誌の編集も十二年になります。お互い継続することの意義をかみしめて頑張ります。

### 育英会再出発の特集号

東京都  
磯村啓子様

「成寿」第四〇巻御送り頂きまして有難うございました。今号は三年振りの育英会再出発の特集号ということで大変充実した内容を拝読致し

ました。

先代方丈様の御意志を承け本育英会が永らく継続されますことを希っております。目には見えぬ人の種を世界に蒔かれた方丈様のお心は久しく引き継がれていくものと確信いたします。

どうぞよいお年をお迎え下さいませ。

### 行動力に感心

千葉県  
村田一夫様

拝復

暮冬の砌、平成乙丑の歳も已に師走は末の八日歳の瀬何

かと慌ただしい日々をお過ごし  
の御事と拝します。此の度は「成寿」第四〇巻冬季号を御恵贈に預かり頗る恐悦至極に存じます。「成寿」は善光寺様の一年間の動向がよく窺え込みも良い冊子に仕上がっております。長く継承しておられるその行動力に感心しております。

本年も最早余日少なく相成りました。御機嫌麗しく御越年ください。

右、御礼少々御挨拶を申し上げます。

スカウトもお利口に座禪

横浜市  
葛西映子様

善光寺ご住職様、皆様

今日は本当にありがとうございます  
ございました。

お寺での座禪、スカウト  
達・リーダーにとっても初め  
での経験でした。八四団の小  
さいスカウトもお利口に座禪  
できたのにはびっくりしまし  
た。朝から二十分間の静かな  
精神統一は、とてもすがすが  
しい思いました。ご住職のお  
話も楽しく、皆耳をかたむけ、  
声を合わせての読経も身が引

きしまりました。すばらしい  
経験をスカウト達にさせるこ  
とができ、またカブスカウト  
達にはお数珠までいただき、  
とても感謝しております。来  
年もぜひ伺いたいと思ってお  
ります。ありがとうございます  
です。

南インドの達磨大師の地に

横浜市  
太寧寺住職 山本浄月様

暑中御見舞申し上げます。  
皆様お元気で御活躍のほど  
お喜び申し上げます。この度  
は育英会の第二十四回生の募  
集の資料一式を御恵送賜りど

うも有難うございました。

先般の私共の禪宗の初祖  
「達磨大師」の顕彰碑の開眼  
法要の件の資料を同封させて  
頂きます。私は御生誕の地、  
南インドのカンチープラには  
二度ほど訪れたことがありま  
すが、達磨大師の記念碑は一  
つもなく、北インドの釈尊の  
地には皆様行かれますが、南  
インドの達磨大師の地には禪  
宗の方も行く方はあまり居ら  
れませんでした。

私はほんのわずかなポケッ  
トマネーから少しずつ十数年  
かけて積んだ資金で小さな碑  
でも建てて頂くべく誓願を立  
て、マドラスで「アジア文化

研究所」を建てて十三世紀頃まで南インドにあった仏教や仏像等を掘り起こして活動しておられた彦坂周仁師（現在日本に帰って豊橋の多聞寺住職をされています）にお願い

してやっと成就いたしました。南インドはアーリヤ系ではなく先住民のドラヴィダ族のタミール系です。それ故アーリヤ系釈尊と達磨大師（二十八代目）は顔立が少し異なっています。

今回の碑建立にあたって私はひざ痛のため出かけられませんでした。マドラス市は現在チェンナイ市となりこの十年間でIT産業の一大工業団

地となり草ばかりの原っぱや空地の多かった郊外は産業道路やビルが立ち並び大発展しているそうです。私もまたまテレビで日本の企業も進出している様子を見ました。

達磨大師が中国に向けて船出をしようと云う港も大体つきとめたと彦坂先生は以前おっしゃっていました。現在の建設ラッシュではブルドーザーでつぶされかねないので安全な場所を求めて「テオリフィカルソサエティ世界本部」の敷地内にお願ひするのが出来た次第です。将来どなたかの志にあずかればもつと立派な達磨顕彰碑にもなつてゆくこ

と信じささやかながら何とか建立できました。一応ご報告まで。

盛夏の砌、何卒皆様ご健勝にて益々のご活躍、御発展の段、祈念申し上げます。

いつもながら優しい笑顔

小野義彦様

釈尊の御般涅槃を謹んで、お偲び申し上げます。今日この頃、御山内の皆様に於かれましては、益々御清祥のことと、心より御慶び申し上げます。

先般は、突然の事にもかかわらず、いつもながらお優し

い微笑みをもって御接待を賜り、心のぬくもりをあらためて感じるひとときを送らせて頂きました。加えて過分のお布施をお預かり致しまして、何から何まで感謝感謝でいっぱいです。

その後、十一月にはブツダガヤ日本寺にて、約一週間の坐禅会を、駒澤大学名誉教授小笠原隆元先生を招き、無事に修行することが出来ました。これもひとえに善光寺様はじめ、皆々様の励ましがあって円成したことで、仏縁に深く感謝申し上げます。

当チエンマイでは、毎朝の

小食供養にて、愚僧の前にひざまづき、手を合わせ祈る人たちの美しい御姿そして美しい笑顔に、布施行の尊きを身にしてみte感じております。有難い修行の毎日です。

今、こちらでは、穏やかな暑さの日々の中、色鮮やかな熱帯性の花々が目を楽しませてくれ、小鳥の歌を聞きながら、さらに木々の木の葉ずれが耳にさやさやと囁きかけてくれます。花々の燃える命に、心がさらに明るく照らされる思いです。

来月から、再び日本各地を行脚致しますが、さらに精進を重ね、また歳も重ねつつ、

ひとり旅を続けようと思っております。

それでは、御山内の皆様の益々の御多幸を心より祈念申し上げます。

一、雲海の 小鳥の涙の 白砂の 踏みしむ音の 心地良き哉

一、白砂の 尊き命 数えても なお数えても 何時終るらむ

(馬骨禅馬)

